

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	GENKI-KIDS風音		
○保護者評価実施期間	R7年11月17日 ～ R7年12月19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	R7年11月17日 ～ R7年12月12日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多機能型事業所として、児童発達支援から放課後等デイサービスへと、事業の種別は変わるものの、支援者が変わらないことから、切れ目のない支援を提供することができる	・就学後や将来を見据えた継続的な支援を、児童発達支援の段階で提供できるよう努めている ・就学時の学校との連携を丁寧に行っている ・就学後の学びの環境がより良いものになるよう、就学前に医療とのつなぎを行うことで、必要な支援を受けられるよう配慮している	・各家庭における、子育てのしんどさの背景を理解すること ・事業所だけでなく、必要な福祉サービス(社会資源)につないでいきたい。 ・事業所所在地以外の社会資源を、広く開拓していきたい(福祉・教育・医療)
2	・必要に応じて、保育所等訪問支援で学校園所を訪問することで、「家庭・学校・事業所」におけるトライアングル支援を行うことができる	・保育所等訪問支援の枠組みだけでなく、必要に応じて、学校園所を訪問するなど、日頃から連携を深めることで、支援の統一に努めている ・保育所等訪問支援においては、必要外の過度な訪問は行わず、学校園所からの要望に配慮しながら実施している	・必要な時に、必要な場所で支援を提供できるように配慮する ・家庭、学校園所の困り感に寄り添いながら、一緒に支援を考えるスタンスを今後も守りながら、いろいろな角度から、環境を整うよう支援者としての見識を深めていく
3	・利用者はもとより、保護者・きょうだい支援にも力を入れている ・保護者の悩みや困り感にリアルタイムで寄り添えるよう、携帯電話やメールなど、24時間体制での連絡手段を整えている	・事業所の固定電話の他に、携帯電話による対応を行っている(2台所有) ・メールやメッセージを活用しながら、相談を受けたり、気になることなどリアルタイムでの支援を心がけている	・しんどさを感じた段階で、保護者の気持ちに寄り添っていく等、困り事が大きくなる前の対応を心がける ・解決できない時は、事業所だけで抱え込まずに、医師や心理士などの、専門職に解決方法を仰いだり、関係機関につないだりする

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・受け入れ人数のしぼりから、利用を希望される方の受け入れができないことが多い	・多機能型事業所ということで、児童発達支援・放課後等デイサービスをサービス単体で考えると、受け入れられる人数が他の単独事業所に比べると少ない ・それぞれが週1回の利用で換算すると、児童発達支援20名・放課後等デイサービス30名が最大受け入れ人数になるため、1人に対する利用日数が限られてしまう	・定員を増やすことは、事業所面積や職員の確保等から、現状難しい
2	・小学校3年を、おおよその目処として事業所の利用を終了していること	・①の弱みと重なる部分ではあるが、受け入れ人数との兼ね合いで、放課後等デイサービスの利用の目安として、おおむね小学校3年生までと案内している	・事業所利用終了までに、所属先の学校や地域における支援体制を整えられるよう努める
3	・送迎サービスがないこと	・職員体制及び、療育プログラムにより、放課後等デイサービスの送迎サービスが実施できていない ・事業所の利用時に、保護者の方と直接お話ができることは、保護者支援としては強みになるが、共働き家庭が増えている現実からは弱みになると捉えている	・事業所の運営方針と、現状を踏まえながら、判断していく